

# 平成29年度 学校評価にかかわる報告

豊浦中学校 学校評価委員会



<教育目標>

## 言葉と心のキャッチボール

Let's play catch with our words and hearts.



### 保護者・地域の皆様へ

平成29年度の豊浦中学校は、1【学力の向上】、2【言語活動の充実】、3【自治的諸活動の推進】、4【地域連携の推進】を重点目標に教育活動に取り組んできました。

この4つの重点目標について、生徒・保護者の皆様からのアンケート結果や教職員による学校評価をもとに振り返りました。今年度の成果と、見えてきた課題を報告させていただき、来年度以降の教育活動に生かしていきたいと思えます。

これまでの教育活動に対し、保護者・地域の皆様から多大なご協力をいただきましたことに感謝いたします。平成30年度もこれまで同様ご協力くださいますようお願い申し上げます。

### ＊ ＊ 「目指す生徒の姿」の達成状況と次年度の方向性 ＊ ＊

#### 1 【学力の向上】について

(1) 目標：「学び合う活動を行っていると感じる生徒の割合」が平均70%以上 → 結果：97%

2学期（12月上旬）に実施したアンケートでは、肯定的に回答した生徒の割合は、1年生で90%、2年生で98%、3年生で100%でした。全校で97%という結果でした。

※ 平成29年度、新たに設定した内容です。 → ⑬

- 校内研修で、すべての生徒が「分かる」「できる」授業づくりを目指して、全教職員が授業改善のために「一人一実践」の授業研究に取り組んでいる。今年度は、教師から一方向的な講義形式で授業するのではなく、生徒たちが主体的に学習活動に参加し、仲間と深く考えながら課題を解決する力を養うことをねらって、意図的に『学び合い』が成立するような活動内容や、生徒が興味・関心をもって分かり合えるような教材・教具を準備するなどの工夫が見られた。こうしたアクティブ・ラーニングにつながる教材研究が生徒の学力向上につながるものと捉え、全職員が授業改善・実践に取り組むことができている。
- (1)は、その実践の指標となる数値である。別のアンケートの質問で「授業に積極的に取り組んでいる」と答える生徒の割合はきわめて高く（平均98%）、学力定着のベースとなっている。

(2) 目標：「家庭学習1時間の目標時間を超える生徒」の割合が70%以上 → 結果：71%

4月から1月まで、家庭学習1時間を超える生徒の割合は、1年生で74%、2年生で52%、3年生で85%でした。全校で71%という結果でした。

※ 参考：平成28年度、1年：69%、2年：54%、3年：68%、全校：64%

また、1人あたりの1日平均学習時間は、1年生で75分、2年生で63分、3年生で91分、全校で75分でした。

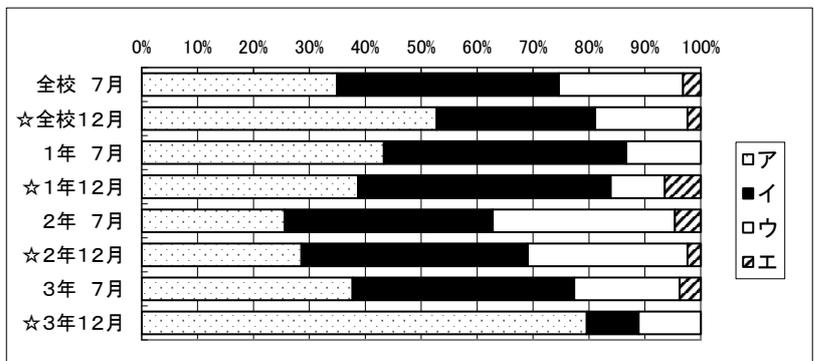
※ 参考：平成28年度、1年：70分、2年：66分、3年：88分、全校：75分

- 結果71%という数値は、学級担任が4月から1月末まで、毎日入力してきたデータから、生徒1日あたりの平均家庭学習時間が1時間を超えていた生徒の割合である。
- 7月、12月に実施したアンケートは次の通りである。(上段が生徒アンケート、下段がと保護者アンケート、別紙資料を参照)

⑮ 家庭学習1時間の目標は達成できていますか。

ア そう思う    イ どちらかといえばそう思う    ウ あまり思わない    エ 思わない

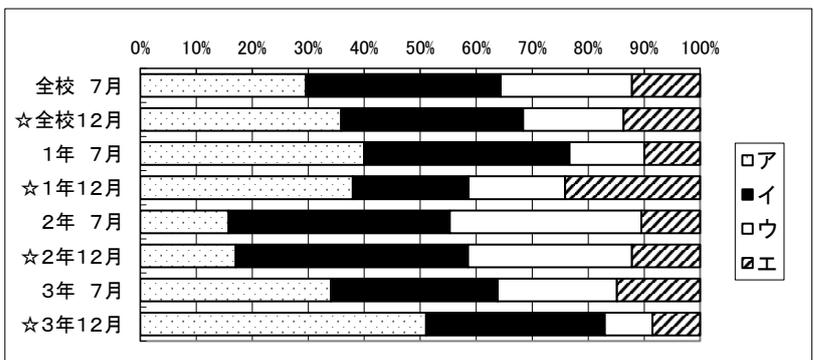
選択肢		ア	イ	ウ	エ
		全校 7月	44	50	28
☆全校12月		67	36	21	3
1年 7月		13	13	4	0
☆1年12月		12	14	3	2
2年 7月		11	16	14	2
☆2年12月		12	17	12	1
3年 7月		20	21	10	2
☆3年12月		43	5	6	0
全校 %		53	28	17	2
肯定率 %		81		?	6
(2017①)		75			*



⑬ お子さんは平日1時間以上の学習を行っていますか。

ア そう思う    イ どちらかといえばそう思う    ウ あまり思わない    エ 思わない

選択肢		ア	イ	ウ	エ
		全校 7月	34	40	27
☆全校12月		42	38	21	16
1年 7月		12	11	4	3
☆1年12月		11	6	5	7
2年 7月		6	15	13	4
☆2年12月		7	17	12	5
3年 7月		16	14	10	7
☆3年12月		24	15	4	4
全校 %		36	32	18	14
肯定率 %		68		?	4
(2017①)		64			*



生徒自身の捉え方や、保護者の見方に若干の違いはあるものの、ほぼ7割程度の生徒が「家庭学習1時間」を意識して努力している様子が見てとれる。

- 各教科では、月ごとの課題を明示し、その課題に取り組むことを奨励している。また、各学年では、それぞれの生徒がどれくらい家庭学習をしたかを廊下などに掲示し、目標である1時間を達成できている生徒には称賛のシールを貼るなど、生徒の意欲を高めようと努めている。
- どの学年も、定期テスト前の家庭学習にはしっかり取り組むことができる。課題は、定期テストのない日頃の家庭学習である。家庭でまったく勉強しない・ほとんどしない生徒の学習意欲を高めるための方策が課題となっている。

(3) 目標：「Web診断テストで6点以上（10点満点）の生徒」の割合が70%以上 → 結果：80%

5月から2月まで行ってきた、Web診断テストで6点以上とった生徒の割合は、1年生で74%、2年生で85%、3年生で81%でした。全校で80%という結果でした。  
 ※ 参考：平成28年度、1年：86%、2年：74%、3年：79%、全校：79%

□ 右表は、5月から2月まで実施してきた Web 診断テストで6割以上とった生徒の割合である。学年平均でいえば、どの学年も県平均を上回っている。また、年間を通して、朝活動の時間にWeb診断テストの過去問題を行い、全校体制で取り組んだ。目標点に達していない生徒には、再テストを行ったり、長期休業で学習会に参加させるなどして

H29年度 Web診断テスト6点以上の生徒の割合

	1 年			2 年			3 年		
	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
5 月	82	61	*	88	95	70	98	88	59
6 月	79	79	*	95	95	93	90	86	78
7 月	100	70	*	91	93	81	75	82	78
9 月	91	70	88	91	81	69	96	76	78
10月	87	73	52	91	88	74	79	73	90
11月	84	76	58	95	88	86	92	80	90
12月	97	74	84	81	77	74	67	78	73
1 月	64	42	58	68	85	81	73	73	80
2 月	90	73	61	88	93	86	*	*	*
平均	86	69	67	88	88	79	84	80	78
学年平均	74			85			81		
全校平均	80								

補っている。数学や英語、理科の授業において、複数の授業者にて生徒を指導するTT（チームティーチング）を行い、きめ細かくきめ細かく生徒に対応できる体制をとっている。来年度もこうした対応・取組を継続したいと考えている。

□ 右表は、4月と1月に実施したNRT学力検査とCRT学力検査の結果である。NRT学力検査の全国平均は50、CRT学力検査の全国平均は100である。どの学年・教科も平均またはそれを上回る結果を得ている。

省 略

## 2 【言語活動の充実】について

(1) 目標：「自分の考えを伝え、相手の話を聞こうとする生徒」の割合が85%以上 → 結果：99%

2学期（12月上旬）に実施したアンケートでは、肯定的に回答した生徒の割合は、1年生で100%、2年生で98%、3年生で100%でした。全校では99%という結果でした。  
 ※ 平成29年度、新たに設定した内容です。 → ⑱

□ 思考力、判断力、表現力を養うために、生徒の主體的に学習に取り組む態度の育成に加え、言語活動を充実が必要とされている。それには日頃から、生徒が友だちや教師の話をしっかり聞き、自分の考えをきちんと伝えることが大切ではないかと考え、今年度から「目標とする成果」を(1)に変更した。言語環境の基本となる「しっかり聞く」「きちんと話すこと」をもっとも配慮すべき事項とした。(1)の割合は、高い値を示している。

- 年々生徒の言語環境は改善しつつあるものの、心ない言葉や悪口の伝言などが原因で生じるトラブルがあとを絶たない。人間関係をうまく作れずネットへの書き込みをしまいトラブルに巻き込まれた事案もある。今年度、大きなトラブル・いじめと認められる事案はなかったが、いつでも生じうるというスタンスで対策を講じていく必要がある。
- 11月末、生徒会中心に「いじめ見逃しゼロスクール集会」を行い、学区小6児童と全校生徒で、いじめを見逃さないことを誓い合った。道徳の授業では、人権やいじめについて深く考えたりする学習を通して、いじめを生まない言語環境をつくっている。また、各教科や特別活動においては、自分の考えや思いを記述したり、発表したりする活動を積極的に取り入れ、生徒の表現力を育てている。そして、ペアや班、グループなどでの話し合い活動や協働的な活動を意図的に設定し、言語活動の一層の充実を目指していきたい。

(2) 目標：「全校生徒への伝達や発表で原稿を見ないで発表する生徒」の割合が60%以上 → 結果：89%

2学期（12月上旬）に実施したアンケートでは、肯定的に回答した生徒の割合は、1年生で94%（16人中）、2年生で88%（16人中）、3年生で90%（40人中）でした。全校では89%（72人中）という結果でした。 → ⑳, ㉑

※ 参考：平成28年度、1年：70%、2年：63%、3年：88%、全校：73%

- 始業式や終業式、全校朝会や生徒朝会、学年朝会など多くの発表場面で、生徒には発表内容を覚えて発表するよう指導している。学級でも、当番に当たった生徒が「その日、気になった記事」を発表する場面を設定し、表現・発表力の育成を図っている。(2)の値は昨年度より増えたが、生徒の発表する機会を増やすなどの働きかけが必要である。

### 3【自治的諸活動の推進】について

(1) 目標：「集団の一員として自覚をもって行動していると感じる生徒」の割合が85%以上 → 結果：96%

2学期（12月上旬）に実施したアンケートでは、肯定的に回答した生徒の割合は、1年生で93%、2年生で98%、3年生で96%でした。全校では96%という結果でした。 → ㉒

※ 参考：平成28年度、1年：95%、2年：100%、3年：97%、全校：98%

- 生徒会で取り組んでいる**スクールネットワーク活動**（学校行事の前後等で行うメッセージ交換）で各行事等で学年を越えた生徒同士のエール交換を行う取り組みを継続している。文字を丁寧に書き文章の内容にも読み手を意識した気持ちを込めたものが増えている。生徒会活動では、生徒会本部や各委員会が中心的な役割を果たし、意欲的な取組が数多く見られている。(1)の割合は、昨年度と同様に高い値を示している。



- 部活動でも、積極的に活動に取り組む生徒が多くなってきている。そのため、各種大会でよい成績を収めていて、それが集団のモチベーション向上につながっている。

(2) 目標：「学校生活が充実していると感じる生徒」の割合が85%以上 → 結果：95%

2学期（12月上旬）に実施したアンケートでは、肯定的に回答した生徒の割合は、1年生で96%、2年生で98%、3年生で91%でした。全校では95%という結果でした。 → ①  
 ※ 参考：平成28年度、1年：100%、2年：98%、3年：95%、全校：98%

- 全校朝会や生徒朝会を通じて、生徒に活躍の場を設定し、生徒の活動を積極的に称賛する働きかけを行っている。そのため、落ち着いた雰囲気のもと、学習や学校行事、部活動などで自分の力を発揮する生徒が増えている。また、生徒会行事や学校行事でも、生徒の実行委員会が主体となった企画や運営場面をより多く取り入れていることが生徒の達成感や充実感につながっていると考えられる。次年度もこうした取組を継続したい。

#### 4 【地域連携の推進】について

(1) 目標：「地域に貢献した活動に取り組んでいると感じる生徒」の割合が85%以上 → 結果：95%

2学期（12月上旬）に実施したアンケートでは、肯定的に回答した生徒の割合は、1年生で100%、2年生で100%、3年生で90%。全校では95%という結果でした。 → ②  
 ※ 参考：平成28年度、1年：98%、2年：85%、3年：77%、全校：85%

- 各学年とも総合的な学習の時間を中心に、地域の方々とさまざまな交流活動を実施している。
- 1年生は、1学期に笹だんごづくり、2学期に小煮物づくりを通して、地域の食生活改善推進委員との交流活動を実施している。2月には、地域行事である「月岡温泉どんと祭り」への参画・運営に取り組んでいる。地域にポスターを掲示したり、FMしばたを通じて宣伝活動を行ったりして、行事を大いに盛り上げようと活動している。
- 2年生は、10月に3日間の職場体験活動を行い、地域の事業所の方々と交流を深めた。2学年PTA活動として真木山周辺道路の清掃活動に汗を流した。
- 3年生は、10月にボランティア活動として、地域のある老人福祉施設と保育園に訪問し、施設を利用している方や、保育園に通園する幼児との交流を行った。半月後に行われた合唱コンクールには、逆に施設利用者・職員が中学校に来校し交流を深めることができた。
- 11月の真木山リレーマラソンに、陸上部と野球部、男子ソフトテニス部が参加するなど、昨年度から地域交流を意識した新しい動きが見られている。今年度は陸上部と野球部の合同チームが2位に入賞した。
- 今年度から、地域との連携を一層強めるため、2年生が行っている職場体験活動を受け入れてくださる校区内の事業所を増やしたいと考え、その割合を大幅に増やすことができた。右表は、この3年間で校区内の事業所で実習する生徒の割合である。今後、多くの地域の方々から豊浦中学校の生徒のことを知ってもらい、そして地域全体で子どもたちを育てる環境づくりを目指していきたい。

**職場体験活動実習先の校区内・外の割合**

	校 区 内		校 区 外	
	人 数	割 合	人 数	割 合
H27	36人	54%	31人	46%
H28	28人	52%	26人	48%
H29	36人	82%	8人	18%

※ 具体的な実習先については、別紙資料を参照